

ORPANOZ

東北学院大学 広報誌
21世紀通信

ウーラノス 1999 JUNE

ウーラノスは、『天』を意味するギリシャ語です。新約聖書の中で273回ほど使われており、よく知られている『主の祈り』の『天にまします我らの父よ』の部分にも記されています。

特集 NEW WAVE T.G.U

『大学設置50周年記念』

- ・ 大学長メッセージ
『東北学院大学の教養教育』
- ・ 大学設置50周年記念事業基本方針
- ・ 大学設置50周年記念事業紹介
- ・ これからの50周年記念事業のご案内



CONTENTS

- 大学院情報
- 学部情報
- 国際交流情報
- 図書館・研究所情報
- 就職・入試情報

50年目の初心



東北学院大学

Vol.1

大学広報誌発行にあたり

大学広報誌『ウーラノス』は、東北学院大学設置50周年を記念して発行されました。東北学院113年の歴史と伝統を尊重する東北学院大学が、高等教育機関として託されている使命を今日どのように果たしているかについて自己点検し学内外に公表する紙面でありたいと願っております。

東北学院大学の教養教育

大学長 倉松 功

歴史的背景

東北学院に限らず、日本のキリスト教大学は、アメリカのキリスト教系のリベラル・アーツ・カレッジをモデルにして創設されました。そのことは、明治・大正時代に設立されたキリスト教大学に、例外なしに妥当するでしょう。リベラル・アーツ・カレッジ（教養大学）の教養の歴史的背景は、古代ギリシャ以来ほぼ十七世紀まで受け継がれた自由学芸三学四科（アルテス・リベラーレース）です。そこには今日の人文・社会・自然の諸科学の他に音楽もふくまれていました。早くから芸術もそれに加わっていたのです。只今は自由学芸の変遷の歴史を辿ることが、課題でありませぬので、本学の教養概念のルーツを探究するという事で、二、三の点に言及しておきます。

まず本学との関連で宗教改革時代です。ルターに関しては、キリスト教学校という名称をはじめで使用したことが注目されます。またかれは教育それ自身が神の命令であるとして、教育の意義を強調し、子供の教育については親に優先権があることを前提にして政府公権による学校設立を勧めました。教養教育におけるラテン語以外の聖書の古典語の重要性を説き、神の教えによる自由と奉仕の教養（人

間形成）をキリスト教学校の教育目標としました。教養教育史上の宗教改革の意義は、ルターの友人でドイツの教師といわれたメランヒトンにも求められます。メランヒトンは、教養教育のそれまでの自由学芸を三つの分野に分けました。それは言語に関する学芸、事物の認識に関する学芸、人間の生き方（社会や歴史の歩みに関わる）学芸の三つです。最後の第三の学芸は、方向指示（ゲノス・プロトレプティコン）といわれるものです。これに属している教科は一般の道徳哲学、歴史、文学でした。メランヒトンは自由学芸の他に最上の教育目的として、信仰と説諭（*pietas et eruditio*）をあげています。その場合の信仰と説諭の役割について、メランヒトンは、信仰は道徳を洗練し、説諭は実の深みについての感覚を養うと説明しています。このようなメランヒトンの、自由学

芸の教養教育と宗教（キリスト教）との関係についての所見は、私どもにとって今日再考に価するようになっています。

次に、現代の自由なデモクラシー社会の基礎付け者として重要なJ・ロックにおいて、自由学芸はどう受けとめられているのでしょうか。かれは自由七科に関心を示しながら、メランヒトン以上にそれを自由に批判検討しています。これまでの自由学芸七科 三学四科 の中の三学の中心を占めていた修辞学や論理学は益する所が少ないといい、ラテン語の学習法についての詳細な指示の他は、古典語について宗教改革者のように高い評価をしておりませぬ。自然学は思弁の知識を豊かにする程度のもので、それについては殆ど注目していません。聖書とキリスト教については合理性（自然法）を重視しながら超合理性も尊重しているという

東北学院の創立者



初代院長
押川 方義

初代副院長
W.E. ホーイ

二代院長
D.B. シュネーダー



倉松 功 大学長

ことがいえそうです。その意味でかれは単なる理神論者ではありませんでした。ただ聖書全体を無差別に漫然と教えることに反対しています。旧約聖書の祭儀律法などは避けて、聖書の平明な基礎的部分を教えるように勧めています。いずれにしても、ロックにおいても自由学芸に並んで教養教育の中に聖書・キリスト教についての教育が含まれていたのです。簡略した教養の歴史の回顧ですが、これが戦後日本の大学で人文、社会、自然、外国語を教養教育の柱としていた背景でもあったのです。また、このような教養教育が、イギリスのパブリック・スクール、フランスのリセ、ドイツのギムナジウムという大学での専門教育直前の教養教育としてヨーロッパに存在し、それがアメリカのリベラル・アーツカレッジに受け継がれたのです。

日本における教養教育

最近、阿部謹也氏が日本人にとって『教養とは何か』という本を書いています。氏は個人の確立を求めながら、「自己と世間を変えていく個人」となることを日本人の教養として主張しているようです。氏のいう日本社会の世間的構成と

というのは、これまでの日本の縦社会は否定しているが、自分と自分に属するものという家族的社会あるいは二人称の同族社会と同じものではないかと、私は自問しています。

たしかに、日本人の教養には日本文化についての理解が大切です。日本文化の独自性の理解と同時に、今日では東北アジアの中とか世界史の流れの中で日本文化を理解することが、一層強く求められています。また日本は第二次世界大戦終了まで、士族、平民という戸籍上の身分制をとどめ、女性は法的・公的には平等ではありませんでした。他方では、上からの近代化、中央集権的行政や官中心の序列は今日でも強固です。教養の概念にしてもフンボルト的教養概念が優勢でした。アングロサクソンの教養は、河合栄治郎門下の一部の人々によって唱えられたにすぎないと思います。

今日の憲法や教育基本法は、そういった日本の制度や文化に対する根本的な問いであったし、その問いが現在もおお続いていると思います。教育基本法では、個人がまず第一にとらえられ、その尊厳と人格の完成が目的化されたのです。しかし、それが、日本の文化との異質性や社会、政治制度に対する大きな問いを意味するものであったことは、今日においても十分に自覚されていないように思います。

そして今日、私たちは、自立した個人が家族・社会・国家を形成するというふうに、個人が家庭を築き、それが社会や国家に優先する文化や思想に、好むと好まざるとにかかわらず、正面から対応しなければならぬ状況にあると思います。なぜなら、それが天地創造以来の自然の順序であるからです。日本文化について理解をもつことと、その日本文化のもっている様々な

価値に私たちがどういう形でコミットし、それをどのように自然の秩序とそれに基づく文化とに関係づけるかということです。

今日日本的教養として盛んにとりあげられているのが、古来有名な、聖徳太子の十七条の憲法の「和を以て貴しとし、さからうことなきを宗とせよ」です。これは儒教からきていると言われていています。同じく儒教の「仁義礼智信」と同様高度に身分社会の礼儀です。最近ではもっぱらその前半の「和を以て貴しとし」の和が強調されます。「和」は大切ですが、これは後半の「さからうことなきを宗とすべし」とセットになっているところからも明らかなように、上下関係、統治者側の要請、あるいは縦社会の歴史が背景にあります。しかし、他方、大学紛争時代のように「さからうことを宗とすべし」となると、これは恒常的に反体制を説く思想となり、正常な社会は形成されません。ちなみにヨーロッパにおいては、十六世紀の宗教改革者はすでに統治者は国民に奉仕するものであることとともに国民の抵抗の権利と責務を説いています。要するに、日本文化の象徴とされるような標語や徳目や思想はそれがどのような時代背景をもって、何の目的で説かれたかが明らかにされねばなりません。日本の縦社会の文化が近代の横社会の文化にどう対応して、自由と平等のデモクラシーの近代社会を形成していくかという考察が必要です。

戦後教育の目的と教養教育

戦後の日本の教育は憲法や教育基本法が明らかにしているように、これまでの日本の縦社会や家父長的同族社会でもなく、ましてや富国強兵でもなければ、また経済優先の技術革新でもないものが教育

の目的でした。まさに人格の完成が目標だったのです。しかもその際、個々の、人間の尊厳とその上に立つ基本的人権の尊重を根底にしたものでした。それを掲げながら、結局は個人の自立や個人の人格尊重よりも集団主義が優位する高度産業社会への有為な人材の育成をしてきました。そして社会もそういう人材を求めていたのです。そして今後も社会のニーズに応えることは大学教育の社会的役割として重要なものでなければなりません。そのことの積極的意義を決して否定するものではありません。しかし、それにも関わらず教育の目的としては大学生一人一人の人格の完成という目標や理念はとりきざしたり、変更したりすべきものではありません。それを追求しながら、近代化、技術革新、経済発展に対応し、自由なデモクラシー社会の形成に努めるべきであろうと思います。

次に、上述のように戦後の日本の教育は個の人格の完成を目的にしましたが、それは自立した生活者としての確立には至らないものであったように思います。厳密に

いえば、自立する個の問題はいじめや村八分、それらの根底にある集団主義、画一主義を積極的に克服する問題として考えねばならないと思います。

それはパプルの崩壊の中で出てきた企業や官庁の自立できていない個人のことだけでなく、大学においてもある例です。要するに自立した生活者でないので同族社会を作り、三人称の社会を構成できず、またその社会で生きられないということです。市民社会を形成する基礎に必要な個の確立が今日の日本の問題とってよいかもしれません。定年後の長い高齢化社会において自立した一人として生活する教養ということでもあります。

そうした個の確立という教育の目的の実現のために、大学の教養教育は必要で欠くことのできないものです。そして、その教養・カルチャーは、元来カルチャー(culture)の根底あるいは前提としてのクルトス(cultus)と関係しているということです。日本以外では教養がどこでもクルトスすなわち宗教とかかわってきていると思います。日本の政教分離では宗教を教えることはできません。ところが、既述の欧米はもちろん、発展途上国においても教養は決して宗教を排除するものではありません。倫理や道徳的価値を大学は問題にしなければなりません。その根底にある宗教が今日の大学の問題であるし、将来の人類の問題です。礼拝やキリスト教で伝達する倫理的価値を自由な選択の中で、マインドに訴えるのがクルトスです。それが人格形成と真に結びついた本学の教養ということが出来ます。最近、河合隼雄氏が個の確立の背景としてのキリスト教に注目しはじめているのを興味深く思っています。

本学の教養教育

その現状

門科目)の見直しは、教養学部が80%ほど担当している教養教育科目の検討とその他の各学部の専門導入・基礎科目の漸増という形で受けとめられています。教養学部以外の学部では、専門教育の一層の低学年化だけでなく、卒業後の特定の専門職との結びつきをはっきりさせる専門教育という方向をとっています。これは、理工系、社会科学系に著しいと言えます。人文科学系における実用科目の導入はごく限られたものです。それにもかかわらず教養教育は、キリスト教を含むリベラル・アーツの牙城としての役割を一層明確にしております。キリスト教は8単位を、原則として一年と三年で履修することになっています。

それには、歴史的背景で考察したように、宗教改革、近代社会以来のキリスト教大学としての必然性があります。戦後の日本の教育の基本精神や目標とキリスト教との重要な関係があるのです。

その他、古典や哲学、芸術(音楽、美術史)などを教養教育科目として幅広く開講しています。私どもは実用専門化を求める現代社会が大学教育に対して、特定専門職の予備教育をますます強く要求してくることを充分認め、それに対する適切な対応をしつつも、今日は広い視野の総合職を必要としている社会でもあることを忘れてはいけません。いいかえれば、グローバルな教養の上に立つ専門教育というのは、本学のような四年制大学の総合大学で、しかも人間形成リベラル・アーツ教育を尊重する大学で形成される、という理念で教養教育を実施しているのです。





語学教育

何かということは、教材の選択から始まり、教育の仕方についても決定的な意味があります。教養教育にとって語学教育の目的は、外国語それ自身であると共に異文化・異国理解ないしは比較文化ということでしょう。外国語・文学の教師を目指す学生以外の人々にとっても、外国語教育の目的が、外国語それ自身を学ぶということと共に、異文化理解や比較文化ということも重要だと思えます。そのような外国語教育の目標を保持しながら、学生のグレードによって現実的に効果のある対応をしなければならぬと思えます。

現実問題として、今日の大学生は、教養や将来に役立つ外国語という基準と社会ですぐに役立つためにという実用性の基準との間にあります。この二つの基準は学生のレベルからしても、外国語教育の実施にあたって尊重せざるを得ないと思えます。

キリスト教的教養

冒頭に述べましたように、本学がその創立時の仙台神学校から東北学院になった時、アメリカのリベラル・アーツ・カレッジ（教養大学）を、モデルにしていました。その時校祖たちはキリスト教的教養あるいはキリスト者としての教養を考えていたに違いありません。そこで、キリスト教的教養とは何かをもう一度振り返って考えてみたいと思えます。本来教養は学問

や読書と結びついたものであります。東西の古典の文書の一部を暗記していたり、クラシック音楽や外国語の知識があることが、教養があることと結びついていることもあります。この辺の教養だと大学で身につけることができるように思われます。さらに教養には、一定の言動のバランス、適切な判断や寛容、誠実さなどが加わるでしょう。この面の教養は大学だけの問題ではなく、すでに家庭や社会の問題です。本学の校祖たちが考えていたキリスト教的教養も、そのような教養を軽視するものでありません。既に歴史的背景で考えましたように、キリスト教世界の教養はもろもろの学問的な教養、芸術的な教養、思想的教養、そして社会（交）的教養さらに徳といわれるものなどそれ自身を否定したり、否認するものではないからです。むしろそれらを大切にしてきたからです。（新約聖書フィリピ4章8-9章参照）

それと共にキリスト教、すなわちキリストの教えは、その人の教養が神と人にとり奉仕し、他の人の喜びとなるものであるようにと求めています。その人自身の豊かさや徳であるだけでなく、神と他の人の喜びと助けになることによって、私たちは自分で自分の教養が神と人にとり奉仕し喜ばれているかどうか自己判定できません。そうあって欲しいとの願い、祈りを持つことができるだけです。それが本学の礼拝によって与えられる教養・人間形成の一つの特徴であるうと思えます。



COLUMN ...WELL...



オープンキャンパス

東北学院大学をもっとよく
知ってもらうために

実施日
1999（平成11）年8月5日

実施キャンパス
泉キャンパス
（文／経／法／教養）
多賀城キャンパス
（工）

受付時間
泉キャンパス
9時30分～10時30分と
13時00分～13時30分
多賀城キャンパス
10時00分～10時30分
（ともに事前申し込みの必要はありません）

参加資格
どなたでも歓迎いたします。

内容
キャンパス内のおもな施設・設備をご案内します。各学部・学科・専攻の教育内容を詳しくご説明します。様々な入試制度について詳しく解説し、また個別の相談にも応じます。就職状況に関する最新の情報を提供します。

交通
<泉キャンパス>
地下鉄泉中央駅 泉キャンパス行きのバスが出ます。（当日は9時00分～10時00分に臨時バスが出ます）
駐車場も準備しております。
<多賀城キャンパス>
JR仙石線多賀城駅から徒歩10分です。
駐車場も準備しております

問い合わせ先
入試センター事務局
TEL 022-264-6455

大学設置50周年記念事業の基本方針

本学は、1949(昭和24)年4月に新制大学としての認可を受け、東北・北海道で唯一の七学部・十三学科を有する総合大学として設置され今日に至っております。

本年は、大学設置50周年の記念の年になっており、各種の記念事業を行うことにいたしました。各種記念事業の実施にあたっては、次の基本方針を考えております。

東北学院が新制大学に昇格した当時の歴史的背景・文化・先達を偲び、建学の精神の伝承について再考する。

新制大学設置以降今日に至るまでの50年間の歩みを、大学関係者(教職員)同窓生、学生の父母がそれぞれの立場で検証する。

新制大学50周年が現役の学生にもたらす意味と、50年間の学生生活の変遷や本学学生気質を考察する。地域の中で本学が果たしてきた役割を確認し、特に東北・北海道地域の発展への貢献とこれからの本学のあり方について考える。

本学の将来展望の一つとして、海外の大学との交流を推進し、一層飛躍することが今後の課題とされるが、とりわけアジアの発展と協

力について、認識を深める。

キリスト教大学としての本学に委ねられている社会的使命について、さらに理解を深める。

以上の基本方針をもとに各種の事業を、今後2年間(1999年と2000年)にわたって実施してまいります。

記念事業の実施によって、本学の学生・教員・職員が、21世紀に向けての東北学院大学のあゆみと使命を考え、本学に対する社会の要請・期待をあらためて認識し、新しい時代に向けて飛躍する機会となるようにと考えております。

50 大学設置 周年 記念式典

大学設置50周年記念式典を挙行政

青く晴れわたり満開の桜が咲く土樋キャンパスで、4月15日、大学設置50周年を祝う記念式典が挙行政されました。

当日は、宮城県を中心に、大学・高等学校の関係者や経済界の関係者、さらに各地区の同窓生にご出席いただき、地域の発展と共に歩んできた歴史を再確認しました。

記念礼拝では、佐々木哲夫宗教部長が、本学が聖書の数々の御言葉に励まされ発展を続けてきた

ことと、50年の歴史の重みに触れて『光に歩む』と題して説教を行いました。

続けて執り行われた記念式では、浅野史郎宮城県知事と日本私立大学連盟代表として國岡昭夫青山学院大学学長にご祝辞を頂戴いたしました。

浅野県知事より、「東北学院大学の存在が学都仙台の一翼を担っており、地元への密着度の高さから地域の発展に大いなる貢献を果たし、地域の活性化が進むように人材の育成を行っていただきたい」と励ましの言葉を頂戴いたしました。

また、國岡青山学院大学学長は、「東北・北海道の私学の雄として教育研究の充実に貢献され、キリスト教教育による人間形成を行って、特色のある学風をさらに高揚されることを祈念する」とのご祝辞をいただきました。

記念式典には、各界から約500名のご出席をいただきました。あらためて、東北学院大学に委ねられている高等教育機関としての使命、地域の発展への貢献、また、それらを通して神のご栄光をあらわすことなどを確認することができました。





記念公開講演会

学都仙台の21世紀へ期待

大学設置50周年記念公開講演会

大学設置50周年を祝う記念行事が2000年秋までに数々実施が予定されております。それらの第一段として、4月15日土樋キャンパスにて記念公開講演会が開催され、阿部博之東北大学総長と倉松功大学長による講演が行われました。

阿部東北大学総長による「学都仙台の再生に向けて」では、仙台が学都として市民に親しまれていること、また、大学が街を構成する重要な要素であり、街に活力を与えるためにも、東北大学と東北学院大学が果たす役割が大きいことを述べられました。

また、引き続き倉松大学長が「私立大学としての本学の使命と課題21世紀に本学がめざすもの」と題して、東北学院の設立の経緯から東北学院大学の教育の目標に触れ、大学の課題として個々の

人間の尊厳と地球倫理について述べ、これからは県下の諸大学との協力と競争によって学都仙台の充実に励みたい旨の講演を行いました。

はからずしも両学長の講演には、地元仙台の発展のために各大学が切磋琢磨をしながら、互いにそれぞれの特色を見いだして、学都仙台を盛り立てていくことが大切であるとの内容が盛り込まれておりました。地元の国立大学と私立大学の学長がそろって講演を行うという、学都仙台ならではの催しに、出席された聴衆の方々には、有意義な学びの時間を共有することができました。また、東北学院大学の将来の可能性を再確認する時ともなりました。

< 両学長の講演については『学院時報』(1999年4月15日号をご参照下さい)>



記念祝賀会

学内外の関係者が共に祝った

記念祝賀会

大学設置50周年記念祝賀会が、約700名のご出席を得て、ホテルメトロポリタン仙台で行われました。

来賓を代表して藤井黎仙台市長、キリスト教学校教育同盟理事長松山義則同志社総長、齋川慶一郎仙台商工会議所会頭の三名にご祝辞を頂戴いたしました。本学が果たしてきた役割の重さと、これからの展望についてのご祝辞に、出席した本学関係者一同は、寄せられた期待の大きさに感謝しつつ、委ねられている使命を遂行する志を新たにいたしました。

祝賀会は本学OBである中野正志衆議院議員の乾杯により開演となり、さらにOBのさとう宗幸氏による青葉城恋唄の披露で、盛り上がりはピークに達し、これまでの本学の50年の歩みが未来へと続いていくという確かな余韻を残しながら閉会となりました。



これからの 50周年記念事業 のご案内



後援会総会が開催される、泉キャンパス

1949（昭和24）年に新制大学の認可を受けて50周年の区切りの年を迎えましたが、2000年には昼夜開講制の導入や土樋キャンパスでの教育・管理棟の新築など大きな事業が控えております。それらも視野に入れて50周年記念事業は今年と来年の2ヶ年間にわたって実施することとしています。

すでに記念式典・記念公開講演会や対青山学院大学総合定期戦50回記念大会は終了しましたが、これから行われるその他の記念事業を紹介します。

まず、7月3日に泉キャンパスにて毎年開催されている後援会総会に合わせて『同窓生・父母とのパネルディスカッション』を開催する予定です。「地域から発信する文化」をテーマとして、本学に関わりのある方々にパネリストをお願いしており

ます。大学の多様な領域が、文化の発祥・発展に大きな影響を与えることを様々な角度から検証する予定です。『同窓生・父母とのパネルディスカッション』は、午前10時40分より90分間の予定で、土戸清文学部長がコーディネーターを務めます。一般の皆様のご来場をお待ちしております。開かれた大学を目指す本学の新しい試みにご期待下さい。

また、この50周年記念事業の一つに U.I.（ユニバーシティ・アイデンティティ）の明確化が計画されています。

具体的には、2000年4月を目標にこれまでに愛されてきた本学の校章とは別に、新たなシンボルマークと大学名のロゴを制定いたします。これらの制定にあたっては、デザインを新たにするだけではなく、大学の理念が明確になるようにと検討しています。

これらの制定は、大学を取り巻く環境が激動の時代を迎え熾烈な競争期に突入しつつある今日、旧きよき東北学院大学の建学の精神を重んじつつ、21世紀における本学の飛躍を目指して取り組んでいるものです。

本学が地域に果たすべき真の役割は何かを学内外のメンバーでワークショップを構成し、様々な立場から検討を重ね、もう一度原点に立ち返り、U.I.を明確化しようとするものです。

COLUMN ...WELL...

昼夜開講制

本学は大学設置の翌年（1950年）に勤労学生に勉学の機会を提供するために、夜間部の短期大学を開設した。その後、1964年に文学部二部と経済学部二部へと発展し現在に至っている。今回、これまでに本学の二部が果たしてきた役割や精神を継承しながら、多様な学習機会を提供するために、二部を発展的に解消し、文学部英文学科と経済学部経済学科および商学科に昼夜開講制の導入を予定しており、文部省への認可申請中である。

新教育・管理棟(仮称)建設

2000年（平成12年）の完成を目指して土樋キャンパスに建設が予定されている新教育・管理棟は、大学50年の歴史と共に歩んできた同キャンパス内の教室等の設備の老朽化のため新たに建設されることになった。新教育・管理棟の建設にあたっては、教学関係の事務室をワンフロア化するなど、学生サービスの向上を第一に考えたレイアウトとした。また、生涯学習や公開講座など地域社会に大学を開放するために、大講義室と中講義室を設け、国際会議などにも対応が可能な設備を備えている。

大学院情報

Graduate School Info.

文学研究科

その教授陣と 独自の専攻領域で 全国から注目される 専攻科が増設

大学院文学研究科は4月からヨーロッパ文化史専攻とアジア文化史専攻の博士コースがスタートした。二つの専攻科は国内はもとより国際的に活躍している多数の優れた教授陣を擁しており、一般入試の院生に加え社会人入学の枠で県内外の大学や高校の現職教授や教諭が定員を上回り入学した。伝統のある英語英文学専攻と合わせ本学の誇る大学院である。

経済学研究科

実学面での活用を重視 国際化にも努めている

経済学研究科は博士前期課程と博士後期課程を有し、修士(経済学又は商学)、博士(経済学又は商学)の学位の授与を行っており、大学院設置の重要な目的である研究者養成を着実に進めるとともに、税理士試験の科目免除のための修士の学位授与という実学面での活用を積極的に心掛けている。

また、国際化にも努め、1999年3月には中国人私費留学生1名に最初の「博士(商学)」の学位を授与したが、それに続く者として後期課程にオーストラリア人文部省国費留学生1名、前期課程に中国人私費留学生2名と韓国人私費留学生1名が在籍している。

さらに、生涯教育への寄与を目的に開始した社会人入学では前期課程に14名が在籍し、2000年3月には社会人として最初の修士の学位取得者7名が出る予定である。

法学研究科

社会人学生の受け入れも充実

法学研究科は、1975年に修士課程、1979年に博士課程(前期課程・後期課程)が設置された。1998年以来社会人学生にも門戸を開き、これに対応するために昼夜開講制を導入している。定員は前期課程20名、後期課程6名であるが、平成10年現在の在籍者は、前期課程11名、後期課程1名である。学生は「法学研究年誌」に論文を発表し、その成果を世に問うている。当研究科の修了者は、大学職員、公務員、民間企業など各方面で活躍している。

工学研究科

21世紀を担う 研究者の育成を

今年度、工学研究科へ進学した学生は博士課程前期39名、後期課程1名である。すでに在学している学生40名と合せ、総計80名の多数の院生たちが未来の研究者あるいは開発指導者をめざして勉学に研究に励んでいる。

この春からの講義の中で人気のあるのは土木工学専攻の「連続体力学」(前期2単位)で、米国ニューヨーク州のクラクトン大学から客員教授としてこられたヘリー・シェン先生が担当されている。英語による講義であるが大変評判がよく、20人以上の学生が熱心に聴講している。本研究科では国際的に活躍する学生を育てるための一環として、これからも外国人教授による講義をカリキュラムに取り入れていく予定である。

人間情報学研究科

人間と情報を キーワードに

人間情報学研究科は、教養学部の大学院として平成6年にまず修士課程が、平成8年には博士課程が設置されて、今年3月には博士課程前期・後期が完成した。本研究科は、基礎部門と行動、社会、生命系の三つのコアから構成され、本学で最初に社会人の大学院入学を認め、斬新な教育体制を組んでいる。今春2名の課程博士(学術)の学位取得者を出すことができた。この2名はいずれも社会人学生である。

学部情報-1

Faculty Info.



文学部

優れた学者・研究者・教育者を擁する文学部

文学部は一部・二部英文学科、基督教学科、史学科から成る。その4学科のいずれも国の内外の学会と教育界で大きな業績をあげている教授陣を有している。東北・北海道地区の最大規模の文学部であり全国に誇ることの出来る学者・研究者・教育者を擁している。その点は多くの国公立大学にまさると言えよう。

東北学院大学の最も歴史と伝統を有する英文学科

英米文学、英語学、英語教育の三領域の英語本来の学的に基本的伝統的科目構成を大切に保持している。時代は変わっても学問の体系は不動である。しかし、それを基盤に、各時代の要請に応えうる国際社会、産業・経済界、コミュニケーション関係の開講科目などを備えた学科として年ごとに充実・発展している。二部英文学科も同じ教授陣で一部と同じカリキュラムである。

仙台神学校と旧神学部の伝統を担う少数教育に徹する基督教学科

牧師養成機関としての伝統を中心的柱としながら、時代の要請に応えるキリスト者社会福祉従事者とキリスト教学校教師をも育成することを目的としている。毎年、継続して、優れた人材を各領域に送っている。国際的視野からの学びと高度な研究ができる学科である。

歴史学と地理学の部門から成る我が国を代表する優れた史学科

日本史・東洋史・西洋史・考古学・民族学・文化人類学の歴史学領域と自然地理学・人文地理学・地誌学を総合的に学べる地理学領域を有する大学は我が国では稀である。しかもそれら各分野で学術的に業績をあげている多くの教授陣から優れた指導を受けられる学科である。



COLUMN ...WELL...



卒業式

1998(平成10)年度卒業式が3月24日に行われました。

「本学で学んだ豊かな知識と教養に自信と誇りを持ち、3203通りの新たな人生を創出していきます」

時代に即応したカリキュラムで 東北経済界のリーダーを育成

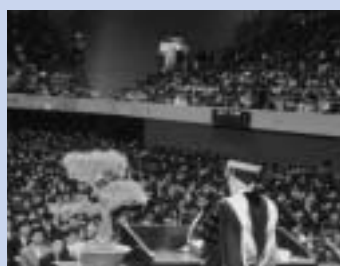
「地の塩、世の光」として、経済学部卒業生の社会への貢献は目覚ましく、東北地方の会社の同窓生社長の数、同窓生公認会計士・税理士の数ともに抜群である。その出発点は、1918(大正7)年発足の専門部商科にあるが、爾来、1964(昭和39)年に経済学部一部経済学科・商学科、二部経済学科として再編成され今日に至るまでの卒業生を含めて、国内全域・海外でも活躍する5万有余の有為な人材を輩出してきた。今日、さらに、「昼夜開講制」を導入し、従来の制度を発展的に解消して、学習ニーズの多様化、生涯教育に応えようとしている。

経済学科は従来の経済理論・政策・歴史系列科目の講義に加えて、地域社会への貢献を意図した東北経済・地域経済・社会福祉関連科目、企業活動の国際化や変貌著しいアジア等諸外国経済に関する科目、情報経済、資源環境経済等関連科目の講義を提供し、時代の変化に対応しようとしている。商学科においても、従来の商学・経営学・会計学系列科目の講義に加えて、情報処理問題を重視し、経営や会計と情報に関連する科目の講義とともに、金融・経営・会計の国際的側面に関連する科目の講義を提供し、同じく時代の変化に対応しようとしている。また、商学科では、「簿記会計講座」を開講し、経済学部の学生ばかりでなく、他学部学生・同窓生にも開放されている。

なお、経済学部付設の東北産業経済研究所、経理研究所、社会福祉研究所は、経済研究資料室の整備と相俟って、研究活動の支援を進める一方、永年、市民への学習機会をも提供している。



COLUMN ...WELL...



入学式

1999(平成11)年度入学式が4月6日に行われました。本学では新入生全員に聖書と讃美歌を贈呈しています。日々の礼拝やキリスト教学の授業等で親しく用いられます。新入生は聖書と讃美歌を受け取ることによって、キリスト教大学である東北学院大学の学生としてスタートすることを自覚します。

学部情報-2

Faculty Info.



法学部

専門知識をさらに深く理解するために、少人数教育を実施

法学部は、建学の精神を法学研究と教育の場において実現すべく、1965年に創設された。法律学科は1学科の構成であるが、政治学の領域にも必要なスタッフを擁している。平成11年現在の教員数は25名(うち嘱託教授1名)である。付置の研究機関として法学政治学研究所がある。

法学部を卒業し学士号を得るためには140単位以上(うち教養教育課目40単位以上)の修得が必要である。教養教育課目から専門科目への移行をスムーズにするため、当学部独自の工夫として専門導入科目(法過程入門、実定法概論、法的思考入門の3科目)を設けている。また講義で得た知識を確実なものとするため少人数教育である演習(基礎演習、演習一部、演習二部)に力を入れているのも当学部の特色である。

なお、教員は「東北学院大学論集・法律学」(年2回刊)、「東北学院大学・政治学研究所紀要」(年1回刊)等にその研究成果を発表している。



教養学部

教養の深みと先進的“知”の融合

教養学部は、教養学科一学科のもとにそれぞれ特色をもつ人間科学専攻・言語科学専攻・情報科学専攻の三本の柱と相互に張りめぐらされた学際的な梁から構成される最新の学部である。学部創設以来11年が経過したが、その年月は「教養学部」の名称と内実に一層の新鮮さを増したと評価されている。

キャンパスは、泉区の丘陵地帯にあり遠く蔵王を望むことができる。キャンパスは本学のいわば大きな入り口でもあり、常にバスを連ねた高校生や高校生の父母の学内見学が絶えない。高校生ばかりではなく、時には仙台に修学旅行に訪れた中学生のグループの大学訪問の姿も見受けられる。今年8月には、この泉キャンパスで高校生へのオ・ブンキャンパスの行事が予定されている。なお、キャンパスは、地域社会とも密接に関連しており、壮麗な礼拝堂で開催されるクリスマスには多くの地域の人々が集う。

教育・研究にあたる110名の文系・理系の多様な人材は、何時でも学際的なチームを組むことが可能である。大学のイメージを一新した優れた教育研究環境のもとで、学生達は将来心の糧となる教養と先進の知を学ぶことができる。

東北に新しい産業を 産学共同研究を推進

工学部長を5期務められた佐藤利三郎先生は3月31日に退職され、名誉教授になられた。その後任として、4月より電気工学科の中鉢憲賢教授が工学部長に任命された。

中鉢教授は世界の音響工学、とくに超音波工学の権威者で、科学技術庁長官から最高賞である功労者表彰を授けられ、また米国の電気電子学会より超音波工学分野での功績賞を授与されるなど、多くの業績をあげている。昨年秋には世界最大の超音波国際会議を仙台に誘致し、組織委員長と大会会長を務めた。この会議の出席者数は756名（うち国外からの出席者数は389名）の多数を記録し、本工学部の応用物理学科や機械工学科からの研究発表も好評で、本学の永い歴史と現在のアクティビティを多くの国内外の参加者にアピールした。

多賀城キャンパスでは今年度は599名の新入生を迎え、1年生から4年生まで総勢 2,275名の学生が21世紀に活躍する工学技術者として十分な学力を身につけようと、毎日元気に勉強している。

工学部は地域との共生を大切に、教育研究面での連携を進めている。去る3月には多賀城工学振興会を発足させ、開発研究に携わる県内企業の皆さんを対象に工学部の研究施設の見学会を開催した。東北の地に新しい産業を育てるため、企業との協同研究推進をさらに深めていくつもりである。また、今年度も昨年度に引き続き5月26日から11月10日の毎週水曜日の夕方、地域市民に対して東北学院大学工学部開放講座を開催する。



COLUMN ...WELL...

■英語英文学研究所 第6回定例公開講演会

日時：1999年6月26日 15時30分より
会場：土樋キャンパス67年館 6階 第2会議室
演題：『ワーズワスの“楽園の回復”について』
講師：福地 明子（本学教養学部教授）
【問い合わせ先】英語英文学研究所 022-264-6401

■法学政治学研究所 第7回学術講演会

日時：1999年7月1日 15時30分～17時00分
会場：土樋キャンパス90周年記念館大ホール
演題：『共犯論の課題と展望』
講師：川端 博氏（明治大学法学部教授、法学博士）
【問い合わせ先】法学資料室 022-264-6406

■史学科 オースンカレッジ

日時：1999年9月18日・25日、10月2日・9日・16日
の土曜日 13時00分～16時00分

（9月18日のみ13時00分～14時30分）

会場：土樋キャンパス67年館 5階 第3会議室

共通テーマ：『アジアにおける日本』

各回テーマ及び担当講師・演題：

- 第1回 『アジアの近代をふりかえる』
「中国の人々からみた満州国」
江夏 由樹氏（一橋大学教授）
- 第2回 『東北アジア史の展開と日本』
「渤海・新羅・日本」
熊谷 公男（本学文学部教授）
「東北アジア諸民族の活動とその遺跡」
細谷 良夫（本学文学部教授）
- 第3回 『稲作の道』
「稲作の期限と長江下流域の新石器文化」
佐川 正敏（本学文学部教授）
「韓国・日本の稲作社会」
杉山 晃一（本学文学部教授）
- 第4回 『東アジアの気候と環境』
「東アジア諸国の環境問題」
宮城 豊彦（本学文学部教授）
「大陸の気候と日本の気候はどうか」
石川 勲（本学文学部教授）
- 第5回 『漢字と漢字文化』
「始皇帝以前の漢字-新資料の発見-」
谷口 満（本学文学部教授）
「日本中世の印刷と出版-漢籍の流行-」
石田 義光（本学文学部教授）

【問い合わせ先】東北文学研究所 022-264-6430

■第19回東北産業経済研究所主催 公開シンポジウム

日時：1999年9月30日 14時30分～17時30分
会場：土樋キャンパス90周年記念館大ホール
テーマ：『ベンチャー・ビジネスの育成基盤としての東北』
パネリスト

柳 孝一氏（早稲田大学アジア・太平洋研究科教授）
伊藤 靖氏（株モモ（MOMO）社長）
佐藤 一男氏（アライ株社長）

コーディネーター

和田 正春（本学経済学部助教授）

【問い合わせ先】東北産業経済研究所
022-264-6405

国際交流情報

International Info.

アーサイナス大学(アメリカ合衆国)との交流

アーサイナス大学は、本学が本格的に国際交流を始めて、最初に協定を締結した姉妹校です。実質的な交流は、1973年の夏期留学から開始され、以来今年で27回を数えます。これまでに、約650名の学生と60名を越す教職員が、本学のために特別に開講される「アメリカ研究講座」(3週間)に参加し、アメリカ大陸横断研修旅行(3週間)と共に貴重な体験をしてきています。本学でも、日本語と日本文化を研修する機会として、「日本研究講座」(約1ヶ月)を1982年に開講し、同大学からは延べ90名の学生を受け入れています。

長期の学生交換は1991年に開始され、本学から毎年3名を派遣し、同大学からは延べ22名の留学生を受け入れています。教育職員の交換も1985年から相互に行われ、今年度で派遣は7名、受け入れは5名となります。

今後ますます活発な交流が続いていきます。



アーサイナス大学学長からのメッセージ

Congratulations and best wishes on the 50th anniversary of the elevation of Tohoku Gakuin to university status. As Alfred North Whitehead observed, the task of a university is no less than defining the future, at least insofar as civilized minds and rational discourse are able to shape it.

Two aspects of Tohoku Gakuin University make it an especially important institution in shaping our world. By definition, teaching is a moral act, affecting the will as well as the mind. Tohoku Gakuin is special because it is so deeply grounded in central human values. In addition, in a world now increasingly composed of interconnections and global nets, Tohoku Gakuin's international perspective means its importance extends far beyond Japan.

Congratulations to the University on the happy occasion of its 50th anniversary. We at Ursinus feel deeply honored to have such a worthy and distinguished partner. You have our heartfelt admiration and our very best wishes for the next 50 years and beyond.

東北学院大学設置50周年を心からお祝いいたします。

かの著名な哲学者アルフレッド・N・ホワイトヘッドも述べているように、教養ある知性の持ち主と合理的な論議が未来を形成することが可能であるとすれば、大学の使命は単にそれを定義するに止まりません。

東北学院大学は、二つの点において今日の世界を形成する上で特に重要な教育機関であります。当然のことながら、教育は知性のみならず意志にも影響を与える道徳的な活動ですが、東北学院はこのような全人類的な価値基準に深く根ざしている故に特別な存在です。さらに、ますます地球規模の連絡網が形成されつつある今日の世界において、東北学院の国際的展望は日本国内を越えて、その重要性を高めていくことでありましょう。

50周年の喜ばしい時を迎えられた貴学にお祝い申し上げますと共に、アーサイナス大学が敬愛する優れたパートナーとして貴学を与えられていることを大きな光栄とし、これからの50年、さらに遠い将来の上に豊かな祝福をお祈りいたします。

COLUMN

...WELL...

本学の鼓動が聴こえる『学都仙台』。



その仙台市は今年、市制施行110周年・政令指定都市移行10周年を迎え、さらに5月11日、人口が100万人に達しました。

国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)
Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)
Pyongtaek University 平澤大学(韓国)
Nankai University 南開大学(中国)

問い合わせ先

国際交流センター事務局
022-264-6425/6404

E-mail : " ICO @ tssc . tohoku-gakuin . ac . jp "

図書館情報

Library Info.

従来、大学図書館は、教育・研究に必要な書籍・文献を蒐集・蓄積し、これを効率よく大学内部の学生・研究者の利用に供する「情報センター」の役割を果たしてきた。しかし近年、次のような点で大きな変化が進んでいる。その一は、大学が積極的に社会に貢献していくこと、つまり大学自体が「開かれた」大学へと変化していく中で、大学図書館も新たな対応が迫られていることであり、その二は、急速に発展している情報化社会の中で、情報の発信・入手・蓄積・検索等々、殆どの面で電子機器・ネットワークの利用が不可欠となっていることである。後者の「電子図書館」化については、本学もOPACの導入、学術情報センターへの加入等を行なっているが、他の大学と同様、今後一層の努力が必要である。

なお、本学の図書館は、創設以来一世紀以上の歴史を有し、現在の土樋・多賀城・泉の3キャンパス図書館、大学院図書室の蔵書の総数は、およそ90万冊にもなっている。その中には貴重な文献や、他の大学にも殆ど残されていない資料などがあり、さらに何名かの碩学の蔵書が「記念文庫」として保管・利用されている。これらの貴重な文献については、今後順次紹介していきたい。



研究所情報

Institute for Research Info.

①<経済学部公開講義>

本学では、年間約40回程度の講演会、シンポジウム、公開講義、それに資格取得のため講座が開催されております。これらの中には、開催回数が40回と相当古くから実施され市民に定着している学術講演会や、在学生・卒業生の資格取得の補助的な役割を担って開設された比較的新しい講座があります。

今回紹介する経済学部公開講義は、経済学部設置30周年記念行事の一環として1994(平成6)年度から開催されております。その年の共通テーマ・担当講師は、毎年交互に経済学科と商学科から選出されるコーディネーターを中心に決められます。

今年のテーマは、「日本のビッグバン～金融システムの変革と個人に与える影響～」10月23日から11月27日までの毎週土曜日、午後3時から5時までの時間帯で合計6回開催します。この公開講義は、高等教育ネットワーク仙台とも共催しており、「仙台市民だより」にも募集内容が掲載されます。

最近、新聞等で毎日のように「ビッグバン」という言葉を耳にする機会が多いと思います。しかし、なぜ日本の金融システムの改革が必要なのか。この改革によりFreeに(市場原理が働く自由な市場) Fairに(透明で信頼できる市場) また、Globalな(国際的で時代を先取りする市場) 市場になるのか。自己責任の時代を迎え、「ビッグバン」が個人にどのような影響を与えるのかについて検討し、金融商品の基本的な分析方法なども考えてみたいと思います。講師陣には学内の先生方だけではなく、いわゆる実践の場で活躍されている銀行・証券関係者も講師に迎えます。

本学は、大学を取り巻く環境の大きな変化に伴い、これまで以上に、地域社会を構成する一員として、真に地域に根ざした大学を地域の皆様と目指し、様々な学習機会を市民に提供してまいります。

COLUMN ...WELL...

『研究業績集』 発行

淘汰される大学、されない大学

第3号となる『東北学院大学研究業績1994-1996』が刊行された。これにより、本学の学長から助手に至る全教員の1988年以降の過去11年間の研究業績が公にされたことになる。文部省、地方自治体の教育行政関係者、産業・経済界、官公庁、教育界の方々、10万を超える同窓生、学生・院生のご父母、受験関係者に、本学の實力を理解していただける総合的文

書である。1991年の大学設置基準の大綱化に基づく省令改正で、いわゆる「大学の規制緩和」が始まった。これにより国公立大学の全てが自らの大学の研究・教育の自己点検・評価と特色ある教育の展開と研究機関としての充実が求められることになった。国家機関が、教育・研究機関を規制するのではなく、全ての大学の自由競争を認めたのである。そのかわり、自助努力をしない大学は淘汰されるのである。大学の真の實力が問われる時代が到来したのである。



就職情報

Placement Info.



本学の学生の男女の比率は2対1の割合で、男子数が女子数を上回っています。しかし、ここ数年の流れで見ると、徐々に女子学生の増加が目立ってきています。勉学意欲やその成果としての成績の分布をみても、女子が男子を上回っており、また、就職部でも女子の頑張りが高く評価しています。

男女雇用機会均等法の成果として、就職戦線では男女の区別をしない募集となります。その中で、昨年、経済学部商学科の女子学生が会社の幹部候補生として業界大手の証券会社に内定しました。本社の人事担当者から直接聞いた話では、「是非我が社に来てほしい。この学生を国際的に通用する証券社員に育てる自信があります。彼女にはその能力が満ち溢れています」実際その学生はその会社に就職しました。本学学生の今後の活躍を大いに期待しています。

入試情報

Admissions Info.

本学の入試が大きく変わります。主な変更点は次の2つです。

「A0入試」を実施します。A0入試とはアドミッションズ・オフィス（入学者選考部）の責任で入学者を選抜する入試方法です。本学入学と勉学に強い意欲をもっている人は誰でも（現役高校生はもちろん、浪人生、社会人も）このA0入試へ出願できます。出願受付は8月末～12月初旬です。A0委員会は、提出書類の審査、面接などによって、できるだけ早急に出願者をA～Dのランクで評価し、すぐに本人に連絡します。Aランクの人は合格が保証され、BとCの場合は、小論文（工学部は小テスト）と面接で最終合否を決めます。出願後、2週間程度でA～Dの結果がわかります。しかも書類審査は無料です。

一般入試（前期日程）において、合格者の4分の3は従来どおり3科目の合計点で決めますが、残りの4分の1は得点の高い2科目だけで決めるという方式を採用します。

COLUMN

...WELL...

泉キャンパス礼拝堂 その響き

フランスのアルフレッド・ケルン社製のパイプオルガンを備え、収容人数は1,200名を誇り、教育施設としては全国最大規模の泉キャンパス礼拝堂。この4月に音響設備が改善され、3.2秒の残響時間を変えることなく、パイプオルガンや讃美歌の美しい響きをそのままにしながら、礼拝説教を明瞭にすることができました。



東北学院大学

土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科、

学 部：文学部・経済学部・法学部（各3・4年）文学部二部、経済学部二部

〒980-8511

宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
022-264-6411(代) * 022-264-3030

多賀城キャンパス

大学院：工学研究科

学 部：工学部

〒985-8537

宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
022-368-1115(代) * 022-368-7070

泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科

学 部：文学部・経済学部・法学部（各1・2年）教養学部

〒981-3139

宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
022-375-1111(代) * 022-375-4040

東北学院中学・高等学校

〒980-0811

宮城県仙台市青葉区一番町一丁目9番1号
022-227-1221(代) * 022-227-6302

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105

宮城県仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
022-372-6611(代) * 022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862

宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
022-368-8600(代) * 022-309-2655

OPANOS

- ウーラノス -
東北学院大学 広報誌 VOL. 1

発行日 1999(平成11)年6月20日

編集 東北学院大学
設置50周年記念事業
大学広報誌発行小委員会

発行 東北学院大学
設置50周年記念事業
実施委員会

〒980-8511

宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

TEL 022-264-6421 FAX 022-264-3030

http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

印刷 (株)エイエイピー